

第15回 神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール 優秀賞

洗足学園高等学校 1年 小方美怜訳

ぞうのしま

アーノルドは うみを たびして くらしていました。

アーノルドは うみが だいすきでした。しかし あるひ おおきな なみがきて、ふねを ひっくりかえして しまいました。

よかった、アーノルドには じまんの シュノーケルが ありました。

なんじかんも およいで、ある ちいさな しまに つきました。

アーノルドは おおむかしの ふなのりの うたを おもいだしました。

「どこまでいっても ひとりぼっち。この おっきな うみに たったひとり！」

アーノルドは ラッパを えんそうしました。「それって、なんの きょくだい？」さかなが ききました。

「たすけて」アーノルドは いいました。「たすけが ひつようなんだ。」けれど だれも たすけては くれません。

アーノルドが ちいさな しまを ながめていると、せんちょうの ぼうしが ながれてきました。

それを かぶると とおくに ちいさな ふねが みえました。

それは ちいさな ねずみの ふねでした。

たすかったぞう！

アーノルドは ふたりで しまにのれるよう かんがえました。

ふなのりは いろいろな むすびかたを しているのです。

やがて、としをとった いぬが ふねを こいできました。

アーノルドは そっと ふねに のりました。

おっと！あしが ふねを つきぬけて しまいました。

ふたりの たすけを かりて、しまを ひろげることが できました。

つぎのひの あさ、しゅんしゅん おとをたてて じょうきせんが ちかづいてきました。

きかいが だいばくはつ して しまいました。

みんな ぶじ しまにも どれました。

アーノルドは ぜんぶ つかって しまをつくりました。

ぎんいろの つきの ひかりの なか、みんなで おどります。

そして ひとばん じゅうくじらの うたを うたいました。

いいうたは すぐに ひろまりました！

たくさんの どうぶつたちが どんどん ぞうのしまに やってきます。

アーノルドは みんなを かんげいしました。「いつでも、だれでも、ここにきて いいんだよ。」

しかし あるひ、そらは どんより、かぜは びゅうびゅうふいて、うみが あれてきました...

みんな だまって アーノルドを みつめました。

もしかして これで おしまい？

「ちょっと まって」アーノルドが いいました。「いい かんがえが ある。」